

呼吸器外科学

責任者：呼吸器外科学講座 齊藤 元 教授

学習方針（実習概要等）：

医師として必要な総合的臨床能力の一つとしての外科基本手技、診断、病態把握、治療法の選択、また外科診療におけるチーム医療や、適切な医療連携、コミュニケーションの重要性を理解する。

教育成果（アウトカム）：

呼吸器病に関わる治療法、特に呼吸器外科学的手法についての知識を整理する。解剖学や呼吸生理学、腫瘍学との関連を理解し、外科的手技に触れる機会を通じて呼吸器外科における治療方針の立案能力を会得し、医療のプロフェッショナルに要求されるコミュニケーションスキルの向上と協調性の重要性を認識できる。Portfolio を作製することによって自己の学修記録をまとめることを習慣づけられる。
(ディプロマポリシー：1,2,3,4,5,6,7,8)

到達目標（SBOs）：

1. 臨床検査法・手術適応・手術方法・局所解剖を理解し、説明できる。
2. 患者のプライバシー等に配慮し、プレゼンテーションを行うことができる。
3. 医師として必要な総合的臨床能力の一つとしての、外科基本手技である糸結びができる。
4. 外科におけるチーム医療や、適切な医療連携、コミュニケーションを理解し、指導医とともに病棟回診などで実践できる。
5. 病態・治療法の適応・選択等を理解し、担当症例のレポートを作成し、これを説明することができる。

特に留意すべき注意事項：

実習期間に 1 件のレポートを提出する。レポートの患者は自身で選択してよい。提出の締め切りは翌週月曜（休日の場合は火曜）の午後 5 時とする。

- 1) 火曜日朝 8 時 15 分からの呼吸器カンファランスに出席する。
- 2) 木曜日朝 8 時 15 分の症例カンファランスで発表する。

事前学修内容および事前学修時間：

シラバスに記載されている各実習内容を確認し、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行い、医療面接・診察など基本的臨床技能実習で修得した手技について再確認をすること。また、実習前に e ポートフォリオ（WebClass）「日々の振り返り 今日の目標」にて、事前学修内容を踏まえた自己到達目標を設定し実習へ臨むこと。各実習に対する事前学修の時間は最低 30 分を要する。本内容は全実習に対して該当するものとする。なお、適宜 e ポートフォリオ（WebClass）を通し個人に対する実習のフィードバックを行う。実習では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。

実習初日にはプレテストを行い基礎学力を確認するので事前に呼吸器外科領域の学習を行うこと。また実習最終日はポストテストを行い学習目標の到達を確認する。

第4・5学年臨床実習スケジュール[呼吸器外科学]

指導医師名：①齊藤元教授 ②出口博之特任教授 ③友安信准教授 ④重枝弥助教 ⑤兼古由香助教

曜	1 時限	2 時限	3 時限	4 時限
月	オリエンテーション プレゼンテーション患者割り当て 糸結び、手洗い実習 [場 所] [指導医] [医局・カンファランスルーム] ②③④⑤	糸結び、手洗い実習 [手術室] ②③④⑤	手術実習 [カンファランスルーム] ②③④⑤	手術実習 [カンファランスルーム] ②③④⑤⑥
火	手術実習 [場 所] [指導医] [手術室] ①②③④⑤	手術実習 [手術室] ①②③④⑤	手術実習 [カンファランスルーム] ②③④⑤	手術実習 [カンファランスルーム] ②③④⑤⑥
水	プレゼンテーション準備 (症例カンファランス用) [場 所] [指導医] [カンファランスルーム] ②③④⑤	プレゼンテーション準備 (症例カンファランス用) [カンファランスルーム] ②③④⑤	プレゼンテーション準備 (症例カンファランス用) [カンファランスルーム] ②③④⑤	プレゼンテーション準備 (症例カンファランス用) [カンファランスルーム] ②③④⑤⑥
木	講義・手術実習 [場 所] [指導医] [手術室] ①②③④⑤	講義・手術実習 [手術室] ①②③④⑤	手術実習 糸結び・手洗いチェック [手術室] ②③④⑤	手術実習 糸結び・手洗いチェック [手術室] ②③④⑤⑥
金	手術実習 糸結び・手洗いチェック [場 所] [指導医] [手術室] ②③④⑤	手術実習 糸結び・手洗いチェック [手術室] ②③④⑤	手術実習 フィードバック (ポストテスト) [手術室・医局] ②③④⑤	手術実習 フィードバック (ポストテスト) [手術室・医局] ②③④⑤⑥

※ 月曜日が休日の場合、火曜日のカンファランス（8時10分集合）後にオリエンテーションを行います。

※ 見学が必須と考えられる処置がある場合は予定に優先して行う。

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用区分	使用機器・器具等の名称	台数	使用目的
手術用機械	胸腔鏡ビデオシステム	1 台	胸腔鏡手術に用いる。
手術用機械	気管支ファイバースコープ	1 台	術中・術後管理時に気管支内の病変の観察を行う。
手術用機械	パルスオキシメータ	1 台	術中・術後管理時または外来診察時に経皮的酸素飽和度を測定
手術用機械	VISER 腹腔・胸腔ビデオスコープ (LTETVPE VP)	1 台	臨床実習手術見学
診断用機械	エコー装置	1 台	エコーガイド下の胸腔穿刺に用いる。
診断用機械	人工呼吸器	1 台	呼吸管理に用いる。
視聴覚用機械	プロジェクター (U4-U-237)	1 台	臨床実習セミナー
その他	シュレッダー (V231S)	1 台	講義・臨床実習にける個人情報管理

教科書・参考書等：

- ・「呼吸器外科学」監修 正岡昭，編集 藤井義敬，南山堂.
- ・「呼吸器外科テキスト」編集 日本呼吸器外科学会，南山堂.
- ・「肺癌取り扱い規約」「肺癌診療ガイドライン」編集 日本肺癌学会，金原出版等 各種取り扱い規約やガイドライン
(呼吸器外科全般にわたる知識の参考であり，必須ではない．知識は日々アップデートされるため，日本肺癌学会等の HP などを参照することも望ましい)

成績評価方法

臨床実習評価は以下の項目について 100 点満点で評価する。

1. 知識：15 点
2. 態度：30 点
3. 技能試験：20 点
4. ポートフォリオ：20 点
5. 指導医評価：15 点